



シラバス

令和 8 年度 (2026 年度)

2 年次 履修科目

指定保育士養成施設 こども學舎

シラバス目次

社会的養護 I B	1	社会的養護 II	16
子ども家庭支援の心理学.....	2	子育て支援.....	17
保育の計画と評価 B	4	保育実習指導 I B.....	18
療育総論	5	保育実践演習	19
保育のシゴト B	6	体育（実技）	21
英語で保育.....	7	保育実習指導 II	23
子どもの理解と援助.....	9	保育実習指導 III.....	24
保育内容演習（ことば）	10	メンタルヘルス.....	25
保育内容演習（人間関係）	11	保育のピアノ B.....	26
保育内容演習（健康）	12	造形.....	27
保育内容の理解と方法（言語表現）	13	身体表現 II	29
乳児保育 II	14	こどものこころのケア.....	31
子どもの健康と安全.....	15	ヒトのからだと仕組み.....	32

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
社会的養護 I B		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
社会的養護について、広い視点から理解を深めるとともに、専門性を高めていく。 社会的マイノリティ、権利、生命倫理などにもふれる。 ① ディスカッションを交えながらの事例検討 ② 個別支援計画の作成やソーシャルワーク実践の流れについて ③ 社会問題について福祉的視点で考える ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
(学習目標)					
多様性を受け入れ、グローバルな視点で考え、個々に寄り添った関わりかたを身につける。 広い視点で福祉を捉え、理解する。 ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
評価方法・基準					
発言力、協調性、客観性、グローバル視点、誠実性、レポート、テストなど ※オンラインなどの状況により変更する可能性があります					
履修上の注意点					
知識や技能の習得は必要な要素だが、社会的立場において「子どもと、個の人間として関わる ことができるか」について個々に模索し、正解のない問題に自分なりの答えを見出す力をつけ る。いろいろな立場の人の生き方を理解する。					
教科書					
社会的養護〈1〉（図解で学ぶ保育）・児童の福祉を支える演習社会的養護Ⅱ 萌文書林					
参考書					
特になし					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション
2回	福祉とは① (社会的マイノリティ)
3回	福祉とは① (欲求)
4回	ソーシャルワーク① (相談支援)
5回	ソーシャルワーク② (個別支援計画)
6回	ソーシャルワーク③ (マクロ、メゾ、ミクロ)
7回	事例検討①（例：いじめについてなど）
8回	事例検討②（例：性や差別についてなど）
9回	生命倫理・人権・権利について
10回	事例検討orテストor レポート
11回	事例検討orテストor レポート
12回	事例検討orテストor レポートのふりかえり
13回	社会的養護まとめ（ふりかえり）
14回	ボランティア論
15回	保育士を目指す皆さんへ (自己覚知、自己開示)

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子ども家庭支援の心理学			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 子どもの遊び及び生活の実態に即した子どもの生涯発達の意義を理解する。 2. 家庭、幼稚園・保育園、地域等の子どもを取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義を理解する。 3. 個と集団の関係を深めるための保育者の基本的な態度を理解している。 4. 保護者の心情及び基本的な対応の方法を理解している。					
(学習目標)					
生涯発達の意味を理解し、「子ども」の発達と「親」としての発達の観点から基本的知識を体得していく。発達の各段階について理解し、教育や保育における具体的な働きかけとその留意点について説明できる。子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身につける。					
評価方法・基準					
授業への参加・貢献度（30％）、授業内ワーク（30％）、試験（40％）					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
『子どもとかかわる人のための心理学』沼山 博・三浦主博 編著 萌文書林					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション：どのような家庭支援を行いたいのか
2回	【発達心理学】 発達の捉え方①
3回	発達の捉え方①
4回	環境とアタッチメント①
5回	環境とアタッチメント②
6回	子どもにとっての家庭
7回	【家庭支援とコミュニケーション】 家庭支援に必要な対話スキル①
8回	家庭支援に必要な対話スキル②
9回	家庭支援に必要な対話スキル③
10回	家庭支援に必要な対話スキル④
11回	家庭支援に必要な対話スキル⑤
12回	家庭支援に必要な対話スキル⑥
13回	【発達障がい理解と支援】 自閉スペクトラム症についての概要
14回	自閉スペクトラム症を抱えた子どもの支援
15回	自閉スペクトラム症の子どもを持つ家庭の支援

	授 業 内 容
16回	ADHDについての概要
17回	ADHDを抱えた子どもの支援
18回	ADHDの子どもを持つ家庭の支援
19回	【子どもにかかわる大人のこころ】 親の育児不安・ストレス
20回	親も子どもと共に育つ
21回	子どものこころの健康のために保護者を支える
22回	【社会と家族】 社会システムとしての家族
23回	家族にもライフサイクルがある
24回	地域機関との連携
25回	【虐待の予防とケア】 虐待についての概要
26回	被虐待児への支援
27回	虐待加害家庭への支援
28回	科目修了試験
29回	振り返り
30回	保育者として子育て家庭を支える

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育の計画と評価B			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育実習に向けて、活動の設定から事前の準備、指導案の作成まで必要な準備を自分でを行い、保育の模擬実践を通して保育実践のイメージを膨らませる。					
(学習目標)					
・保育実習での実践を想定し、年齢に応じた活動を設定し指導案を書ける事。 ・実践に必要な事前準備を自分で行う事ができる。					
評価方法・基準					
指導案の作成における学習態度(30%) 提出した指導案(30%) 模擬実践(40%)					
履修上の注意点					
必要であれば、指導案作成に必要な保育雑誌をご自身で用意すること。 持ち込んだパソコン、スマホ、タブレットで教材を調べる事も可					
教科書					
教育課程・保育の計画と評価（萌文書林）					
参考書					
保育所保育指針解説(フレーベル館) 指導案作成に必要な保育雑誌					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション ～指導案を書くことを楽しむ～
2回	保育実習における実習の種類と指導案について
3回	指導案の書き方の確認（言葉の使い方） 作成上の注意点（インターネット・保育雑誌の使い方） シュミレーションの重要性について
4回	指導案の構造、各項目について理解する 実習生が書く指導案にたりないもの
5回	5歳児の部分実習の指導案の書写①
6回	5歳児の部分実習の指導案の書写②
7回	5歳児の指導案の作成 設定保育の遊びの設定の仕方について ～活動、遊びについて考える～
8回	5歳児の部分実習の指導案の作成① 活動の設定
9回	5歳児の部分実習の指導案の作成② 指導案作成
10回	1日実習、完全実習の指導案について
11回	1日実習、完全実習の指導案の作成①
12回	1日実習、完全実習の指導案の作成②
13回	5歳児を想定した部分実習の模擬実践①
14回	5歳児を想定した部分実習の模擬実践②
15回	5歳児を想定した部分実習の模擬実践③

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
療育総論			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
「療育」とは、発達障がいやその他の発達上の課題を持つ子どもたちの成長を支援するために、専門的な教育や療法的アプローチを用いる取り組みである。保育士が療育を学ぶことにより、保育や療育の現場で出会う発達に課題を持つ子どもたち一人ひとりの特性やニーズを的確に把握し、適切な支援を提供することが可能になる。本授業では科学的に効果が実証された支援手法の習得を助け、保育士の専門性の向上と、より質の高いサービスを提供できる力の醸成を図る。					
(学習目標)					
・応用行動分析（ABA）の基本原理や概念を理解し、現場での介入に活用できる。 ・子どもの視点から個別支援計画を立案することができる。 ・子どものポジティブな側面に注目することができる。					
評価方法・基準					
・授業への出席（30%） ・授業内ワーク（20%） ・試験（50%）					
履修上の注意点					
・第1講目にプレテストを実施するが、現状の理解度確認と授業内容調整のために行うものであり、成績には反映されない。 ・講義科目ではあるが、一部簡単な演習を実施するため積極的な参加を期待したい。					
教科書					
・適宜、資料を配布する。					
参考書					
つみきの会、藤坂 龍司、松井 絵理子（2015）. イラストでわかるABA実践マニュアル：発達障害の子のやる気を引き出す行動療法. 合同出版. 奥田 健次（2020）. 叱りゼロで「自分からやる子」に育てる本. 大和書房.					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション：発達障がいとは何か、行動分析学の基本的な考え方、プレテスト実施
2回	応用行動分析①：レスポナント条件づけとオペラント条件づけ、三項随伴性
3回	応用行動分析②：行動の定義、行動の観察法と記述
4回	応用行動分析③：強化スケジュール、分化強化手続き、シェイピング、チェイニング
5回	応用行動分析④：消去手続き、レスポンスコスト、タイムアウト
6回	応用行動分析⑤：機能分析の実施、支援計画の策定
7回	療育の実際
8回	ペアレントトレーニング①
9回	ペアレントトレーニング②
10回	PCIT（親子相互交流療法）の基礎
11回	TEACCHプログラム
12回	PECS（絵カード交換式コミュニケーションシステム）
13回	個別支援計画の策定、支援の模擬演習
14回	支援現場における倫理と法的配慮：支援活動に伴う倫理的問題、プライバシー保護、シェアード ディシジョンメイキングについて
15回	科目終了試験：資料持ち込み可、記述式の試験を実施する。

科目名		単位	担当教員名	
保育のシゴトB		2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態
講義				
科目概要				
(授業のテーマ) 保育職を幅広く多角的な視点から捉えられるような能力を養う。 また、子どもを取り巻く地域社会や子育て環境に目を向け、より実践的な取り組みを企画・運営し、保育実践に必要な知識や技能を習得する。				
(学習目標) 社会人としての基本的あり方、保育者の倫理観、乳幼児保育の基礎知識・技能、保護者支援の方法等、具体的な保育方法の学習とともに、社会的な保育の動向など幅広い視点も含め、保育の専門家としての見識を持つように学習を行う。				
評価方法・基準				
出席状況・授業態度・積極性等を総合的に評価する。				
履修上の注意点				
教科書				
参考書				
適宜、参考資料を配布する。				

6

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
英語で保育			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
この授業では、国際化社会において保育の現場で求められる実践的な英語力をつけていきます。教材には、園児や保護者とのダイアログ（会話文）、コミック、洋楽などを使用し、英語の口語表現を学びます。 また、日本と外国の文化・考え方・マナーの違いなども授業内で紹介し、外国人の子どもや保護者と接する際に気を付けるべき点なども学んでいきます。					
(学習目標)					
1. 子どもたちに英語を教えられる基礎英語力をつける。 2. 外国人の保護者と適切にコミュニケーションがとれる英会話力をつける。 3. 日本と外国の文化・考え方・マナーの違いを理解し、国際的感覚を身に着ける。					
評価方法・基準					
・ 定期試験50% ・ 平常点（授業への意欲・参加）30% ・ 課題提出 20%					
履修上の注意点					
授業に毎回持参する必要はありませんが、予習・復習をする際に便利なので、英和辞書を準備して下さい。電子辞書、紙の辞書、どちらでも構いません。					
教科書					
プリントを使用します。					
参考書					
授業内で提示します。					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス（授業内容の紹介、英語の学習方法について）
2回	コミック・ジョークで口語表現の学習 1
3回	英語の発音法則について、洋楽で発音練習 1
4回	会話練習（自己紹介の際の表現）
5回	コミック・ジョークで口語表現の学習 2
6回	会話練習（登園の際の表現）、洋楽で発音練習 2
7回	会話練習（歌・音楽・読み聞かせの時間の表現）
8回	コミック・ジョークで口語表現の学習 3
9回	会話練習（お絵描き・工作の時間の表現）、洋楽で発音練習 3
10回	会話表現（外遊びの際の表現 1）
11回	コミック・ジョークで口語表現の学習 4
12回	会話表現（外遊びの際の表現 2）、洋楽で発音練習 4
13回	会話表現（昼食の際の表現）
14回	コミック・ジョークで口語表現の学習 5
15回	会話表現（着替え・おむつ交換の際に使う表現）、洋楽で発音練習 5

	授 業 内 容
16回	会話表現（トイレの際に使う表現、お昼寝の時間の表現）
17回	コミック・ジョークで口語表現の学習 6
18回	会話表現（ケガ・病気に対処する際の表現）、洋楽で発音練習 6
19回	会話表現（けんか・トラブル対処の際の表現）
20回	コミック・ジョークで口語表現の学習 7
21回	会話表現（お迎えの時間の表現）、洋楽で発音練習 7
22回	会話表現（保護者との会話表現 1）
23回	コミック・ジョークで口語表現の学習 8
24回	会話表現（保護者との会話表現 2）、洋楽で発音練習 8
25回	会話表現（保護者との会話表現 3）
26回	コミック・ジョークで口語表現の学習 9
27回	会話表現（保護者との会話表現 4、進級・卒園の際の表現）、洋楽で発音練習 9
28回	復習とまとめ 1
29回	復習とまとめ 2
30回	定期試験

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの理解と援助			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
・「物事を深く考えていない」「自己中心的な存在」など否定的な見方をされることが多い子どもたちだが、「果たして本当にそうなのだろうか？」子どもの気持ちに寄り添うことの大切さを改めて知る。 ・現場の子どもたちのエピソードや現場のDVD（動画）をもとに考える。					
(学習目標)					
1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
評価方法・基準					
授業態度（60％＝4％×15回）レポート（40％＝10％×4回）で評価					
履修上の注意点					
教科書					
こどものみかた春夏秋冬 柴田 愛子：福音館書店					
参考書					
保育の瞬間 柴田 愛子：学研 子どもたちのミーティング 柴田 愛子・青山 誠共著：りんごの木 保育でつむぐ子どもと親のいい関係 井桁 容子：小学館 新しい保育講座3 子ども理解と援助：ミネルヴァ書房 保育の「ヘンな文化」そのままでもいいんですか！？ 柴田 愛子・大豆生田啓友：小学館 育てたように子は育つ 相田みつを・佐々木正美：小学館文庫					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション（講義の方向性を再認識する） 保育原理の「子ども理解」を振り返る
2回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？①
3回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！①（DVD視聴）【レポート①】
4回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？②
5回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？③
6回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！②（DVD視聴）【レポート②】
7回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？④
8回	子どもって何を思っているの？何を考えているの？⑤
9回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！③（DVD視聴）【レポート③】
10回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？①
11回	子どもの気持ちを知った保育者の対応は？②
12回	子どもたちの姿から子どものことを知ろう！！④（DVD視聴）【レポート④】
13回	子どもをより知るための方法 （よく観る・メモをとる・振り返る・対話・連絡帳やクラス便りで共有）
14回	特別な配慮を要する子どもを通じて
15回	まとめ（振り返り）

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（ことば）			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 「言葉」は人間がコミュニケーションを行い、他者と心を通わせる上で欠かすことができない手段の一つです。言葉は単に年齢によって自然に育っていくのではなく、一人一人の子どもの成長に応じた適切な家庭環境や保育環境の中で少しずつ築かれていくものです。それを見極めるには、発達のプロセスを学びましょう。					
(学習目標) 前半はプリントを使う講義形式を行います。後半はグループ活動で紙芝居を製作します。乳幼児期の言葉の発達はその以降の人間形成に関係することを理解し、どんな言葉かけが、どんな環境が必要なのか考える。					
評価方法・基準					
小テスト・・・30点 授業態度・出席状況・・・20点 紙芝居製作・発表・・・50点					
履修上の注意点					
発達の過程を学んでください。ただ、子ども発達は凸凹で一人一人違います。皆さんの発達もそれぞれ違うでしょう？正しい成長はないのです。その時々で一番良い指導を考え、環境作りをするのが大切なのです。そんな目を持って学びましょう。					
教科書					
保育所保育指針 参考書の中から取り出して、プリントを用意する。					
参考書					
乳幼児の「言葉」のしくみと発達の鍵・・・今福理博著 保育内容「言葉」と指導法・・・萌文書林 発達（172号）・・・ミネルヴァ書房					

	授 業 内 容
1回	・オリエンテーション ・言葉の発達基礎
2回	・胎児の音感 ・単語の発見
3回	・単語を見つけるしくみ ・母語への適応
4回	・発語と語彙爆発：0歳～2歳頃 ・文法と会話能力：2歳頃
5回	・言葉の使い方の力：2歳頃から ・文字の興味と獲得：3歳頃から5歳頃
6回	領域「言葉」のねらいと内容
7回	・非認知能力 ・特別配慮が必要な子ども達①
8回	特別配慮が必要な子ども達②
9回	・紙芝居グループ決め 題材 役割分担① ・テストについて
10回	・小テスト（30分） ・紙芝居グループ決め・題材・役割分担①
11回	紙芝居グループ決め・題材・役割分担②
12回	紙芝居製作と練習①
13回	紙芝居製作と練習②
14回	発表①
15回	発表②

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容演習（人間関係）			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 保育所保育指針に示された保育所保育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解し、保育における子ども、保護者、地域社会を含めた「人間関係」についての知識や援助方法を習得する。					
(学習目標) 保育所保育指針の領域「人間関係」のねらいや内容を理解し、乳幼児における「人と関わる力」の育ちの過程を理解する。また、保護者との人間関係、保育者同士の人間関係の重要性を理解する。					
評価方法・基準					
出席状況・授業態度・積極性、試験成績等を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
保育内容「人間関係」と指導法（中央法規）					
参考書					
適宜、参考資料を配布します。 保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					

	授 業 内 容
1回	保育の基本 領域「人間関係」
2回	0歳以上3歳未満児の子ども人間関係の発達
3回	3歳以上児の子ども人間関係の発達
4回	乳幼児の子どもの人と関わる力を育む保育者の関わり
5回	自立心を育む
6回	道徳性・規範意識の芽生え
7回	協同して物事に取り組む
8回	社会生活とのかかわり
9回	遊びと人間関係の発達
10回	人と関わる力を育む指導計画の作成
11回	特別な配慮を必要とする子どもの保育
12回	子どもの育ちを支える保育者の人間関係
13回	ICTを活用した保育
14回	人間関係における今日的課題
15回	試験

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
保育内容演習（健康）		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
乳児期における3つの視点（健やかに伸び伸びと育つ・身近な人と気持ちを通じ合う・身近なものとの関わり感性が育つ）と、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を通して捉え、子どもの発達に対する理解を深めながら、「保育内容健康」「健康および安全」について具体的に理解することをねらいとしている。 養護と教育を一体的に捉えた保育内容、家庭との連携を通して、子ども一人ひとりの「心」「身体」「命」を守っていくために必要な、具体的な知識・技術・判断力を習得する。					
(学習目標)					
(1)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境構成、教材の活用と工夫、保育過程とその実際について理解し、実践的な力の基礎を習得する。 (2)子どもの育ちの連続性について学び、家庭との連携の中で育つ子どもの姿を理解する。 (3)実践の場で求められる寄り添いの姿勢と発信する力を習得する。					
評価方法・基準					
授業態度（積極性、課題意識、主体性、発信力）・出席状況・提出物・発表・レポート・グループワークなどを総体的に評価します。 到達度だけではなくそこに至る過程において、自分の想いを表現する、他者の考えに耳を傾けるなど、意欲・興味・関心・他者との協調・協働という姿勢を重視します。					
履修上の注意点					
乳幼児期の子どもたちに育って欲しいと願う姿でもある、「主体的に考え、積極的に行動する」姿を皆さんにも期待しています。この場所でお会えた皆さんと、自身が抱える悩みや課題点についても一緒に考えていけたらと思っています。言葉に想いをのせて語り伝えられる保育者を目指してほしいと願っています。 進行状況に応じて授業内容で変更が生じる場合は、事前にお知らせします。					
教科書					
無藤隆（監修）『事例で学ぶ保育内容 領域健康』（2020）萌文書林					
参考書					
・汐見稔幸（監修）『イラストたっぷりやさしく読み解く 保育所保育指針ハンドブック』（2020）学研 ・東社協保育士会保健部会『改訂版保育園の保健のしごと』（2019）赤ちゃんママチャ <その他必要に応じて、授業内で資料を配布します>					

	授 業 内 容
1回	はじめに・幼児教育の基本 ～保育者を目指す皆さんへ～
2回	子どもの育ちと領域「健康」保育所保育指針改定のポイント (乳児・養護・健康・災害への備え・園内研修の充実)
3回	領域「健康」と他領域のとの関係 (総合的な保育・養護と教育)
4回	年齢別にみる身体発達と基本的生活習慣 (乳児・0歳児、1～2歳児・特別な配慮を要する個別の支援)
5回	年齢別にみる身体発達と基本的生活習慣 (幼児・3～5歳児・特別な配慮を要する個別の支援)
6回	子どもの健康と遊び (興味を引き出す環境構成・指導計画と評価)
7回	保育現場における健康と安全 (安全対策・危機管理・事故対応・応急処置)
8回	子どもを取り巻く今日的課題 (虐待・生活リズムの確立・保育時間の長時間化)
9回	家庭との連携・育ちの連続性 保育者に求められる家庭支援の現状と課題
10回	保健だより作成へ向けた課題・テーマの整理（グループワーク）
11回	保健だより作成（グループワーク）
12回	保健だより作成（グループワーク）
13回	保健だよりグループ発表
14回	子どもを取り巻く今日的課題（事例検討）
15回	まとめ・個別最終レポート作成

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育内容の理解と方法（言語表現）			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
① 表現活動に係る児童文化財等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的な展開のための技術を習得する。 ② 児童文化財についての知識を学ぶ。 ③ 知識を基に児童文化教材を作成する。					
(学習目標)					
子どもの発達と児童文化財等に関する知識と技術を習得する。 さまざまな教材の特性を理解し、活用することが出来る。 学んだ知識を活用し、保育園場で求められる児童文化教材を作成する。					
評価方法・基準					
作成した作品及びその発表の点数を重んじるが、出席状況・授業態度・積極性も含め、総合的に評価する。					
履修上の注意点					
児童文化教材の作成については、第13・14・15回において自作品の発表（試験）を行うので、それまでに完成させる。					
教科書					
保育者のための言語表現の技術（萌文書林）					
参考書					
適宜、参考資料を配布します。 保育所保育指針解説 平成29年告示（フレーベル館）					

授 業 内 容	
1回	①オリエンテーション ②実践編Ⅰ. おはなし ③実践編Ⅰ. おはなし②
2回	
3回	児童文化教材の作成①
4回	①Ⅱ. 絵本 ②Ⅱ. 絵本②
5回	
6回	児童文化教材の作成②
7回	①Ⅱ. 絵本③ ②Ⅱ. 絵本④
8回	
9回	児童文化教材の作成③
10回	①Ⅲ紙芝居・Ⅳパネルシアター ②Ⅴペープサート・Ⅵ人形劇・その他
11回	
12回	児童文化教材の作成④
13回	発表（試験）
14回	発表（試験）
15回	発表（試験）

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
乳児保育Ⅱ		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
・乳児保育Ⅰで学んだことをもとに、3歳未満児の発達および保育について理解を深める。 ・養護と教育の一体、3つの視点、5領域を踏まえた保育内容について研究をする。 ・演習を通して乳児の生活・遊び・活動の援助について検討する。					
(学習目標)					
1 3歳未満児の発達の過程や特性を踏まえた環境・援助について説明ができる。 2 乳児の生活や遊びにおいて、養護及び教育の一体性を踏まえた保育内容を検討する。 3 保育研究を通して、様々な視点、方法があることを知り、柔軟に取り入れる。					
評価方法・基準					
意欲・態度・提出物 (50%) 研究保育の取り組み (50%)					
履修上の注意点					
・実践ワークが中心です。 ・乳児保育Ⅰの復習を自ら行い。授業では具体的な演習で考察力をつけましょう。 ・他者の視点から学び、自分の視野を広げ、柔軟性を養いましょう。 ・意見交換、保育研究、発表を通して、保育者間の連携、協働のスキルを磨いて下さい。					
教科書					
新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (中央法規)					
参考書					
保育所保育指針 他					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション 0歳児クラス 発達・生活と遊び
2回	応答的な関わり① わらべうた・手遊び
3回	応答的な関わり② 援助・環境構成
4回	1歳児クラス 発達・生活と遊び
5回	1歳児の活動と援助① 製作
6回	1歳児の活動と援助② 製作
7回	2歳児クラス 発達・生活と遊び
8回	2歳児の活動と援助① グループワーク
9回	2歳児の活動と援助② グループワーク
10回	乳児の保育研究～ テーマを選択
11回	保育研究～準備①
12回	保育研究～準備②
13回	発表①
14回	発表②
15回	発表③ ～ ふりかえり

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子どもの健康と安全			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育保健において、子どもの健康と安全は最重要課題であると考えます。子どもの健康と安全を守るために必要な保育環境についてわかるとともに、保育施設内外での事件事故を防ぐための知識と技能について身に付け、保育現場で生かせる力を身に付けることをテーマとします。					
(学習目標)					
・保健的観点を踏まえた保育環境および援助についてわかる ・保育における健康および安全管理についてわかる ・子どもの体調不良などに対する適切な対応についてわかる ・子どもがよくかかる感染症の対策についてわかる ・保育で必要な保健的対応についてわかる ・健康および安全管理の実施体制についてわかる					
評価方法・基準					
授業への参加姿勢・出欠 20% ワークシート 80%					
履修上の注意点					
授業は教科書に沿って進めるが、進度によっては変更する可能性あり。					
教科書					
『子どもの健康と安全演習ノート』 編著 小林美由紀 診断と治療社					
参考書					
随時提示する					

授 業 内 容	
1回	ガイダンス 第2章 保育における健康および安全管理について知ろう ① 衛生管理
2回	② 事故防止および安全対策
3回	③ 危機管理と災害への備え
4回	第3章子どもの体調不良などに対する適切な対応を知ろう ① 体調不良や傷害が発生した場合の対応と救急処置
5回	② 救急処置および心肺蘇生法（1）
6回	② 救急処置および心肺蘇生法（2）
7回	第3章子どもの体調不良などに対する適切な対応を知ろう ① 乳児の心肺蘇生法
8回	② 子どもの誤嚥時、窒息時の対応
9回	まとめ
10回	第5章 保育で必要な保健的対応を知ろう ① アレルギー疾患を持つ子どもの養護
11回	② エピペンの使用方法（1）
12回	② エピペンの使用方法（2）
13回	第6章 健康および安全管理の実施体制を知ろう（1）
14回	
15回	まとめ

ゲストティーチャー



令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
社会的養護Ⅱ		1単位			
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
施設養護と家庭養護の特徴を理解し、社会的養護における計画、記録、自己評価の実践を学ぶ。また、社会的養護における相談援助の方法や技術を理解する。授業は現場の保育に応用できるように子どもの力を引き出す遊びの紹介や演習する機会を多く設け具体的な 授業展開を図る。					
(学習目標)					
① 社会的養護の役割について理解している ② 施設における保護者との連携について考えることができる ③ 個々の子どもの状態に応じた遊びが実践できる					
評価方法・基準					
講義中に示す小課題 30% 講義・演習への積極性 10% 最終レポート 60%					
履修上の注意点					
子どもにかかわる専門職を目指すにあたり、社会的養護にかんする知識はどの立場においても重要です。興味関心を持って取り組んでください。					
教科書					
社会的養護Ⅰ―「新しい社会的養育ビジョン」の理解に向けて― 鈴木幸雄・梶原敦・美馬正和（同文書院）					
参考書					
演習・保育と社会的養護実践―社会的養護Ⅱ― 橋本好市・原田旬哉（みらい） 社会的養護内容 伊藤嘉余子・小池由佳編著（ミネルヴァ書房）					

	授 業 内 容
1回	ガイダンス 児童虐待
2回	社会的養護の基本理念と原理
3回	児童福祉施設における保育士の役割
4回	施設における支援の実践
5回	施設における支援の段階
6回	虐待を受けた子どもへの対応
7回	子どもの権利① 子どもの権利条約
8回	子どもの権利②
9回	社会的養護の動向と新しい社会的養育ビジョン 乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設の特徴と実際
10回	社会的養護にかかわる相談支援（児童虐待の実際と地域の家庭への支援）
11回	社会的養護にかかわる相談支援（事例から考える）
12回	社会的養護にかかわる相談支援（マッピング技法）
13回	児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設の特徴と実際
14回	被措置児童等虐待
15回	まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
子育て支援			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育所保育指針に示されている子育て支援を理解すると共に、必要な子育て知識や虐待の予防、保護者の子育て上の心配や悩みの解決への支援の仕方、保護者支援のために必要な保育技術や制度・政策、保育者として知っておくべきことを、グループワークやロールプレイング等の演習を通して学ぶ。 また諸外国の子育て支援を学ぶことで今度の子育て支援に生かしていけるようになる。					
(学習目標)					
① 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。子育て支援の現状について述べることができる ② 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
評価方法・基準					
ミニレポート 50 点 (10点×5回) 授業中のグループワーク等の参加姿勢30点 提出物20点					
履修上の注意点					
演習を中心に行うため、話し合い、グループワークへの積極的な参加を求める。 グループワーク等でIT 機器（PC、タブレット、スマートフォン）の利用をすることがある。					
教科書					
毎時間プリント配布するため、教科書は不要					
参考書					
必要があれば適宜紹介をしていく					

	授 業 内 容
1回	子育て支援とは
2回	子育て環境の現状
3回	日本の子育て支援制度の成り立ち
4回	日本の子育て支援制度現在
5回	子育て支援におけるおもちゃや絵本の必要性について
6回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク①
7回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク②
8回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク③
9回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク④
10回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 グループワーク⑤
11回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 発表
12回	日本の子育て支援と諸外国子育て支援 発表
13回	地域資源と関係機関 グループワーク
14回	地域資源と関係機関 グループワーク
15回	まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導 I B			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育実習の意義・目的・内容・方法を理解する。実習課題の明確化、実習記録の意義・方法、実習施設の理解を図り、保育の理論と実践の関係について習熟し、実習を円滑に行うために必要な事柄を学習する。また、実習後の自己評価を行い今後の課題を考察する。					
(学習目標)					
保育実習の意義・目的・内容といった実習の全体的な枠組みを理解し、実習前にすべき事項、指導案・実習記録の作成等の知識と技術を身につけることを目標とする。また、実習後の自己評価により、今後の課題を明確にする。					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、積極性を総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
これからの時代の保育者養成・実習ガイド 中央法規 実習の記録と指導案 ひかりのくに					
参考書					

授 業 内 容	
1回	実習オリエンテーションに向けて 実習日誌 園の概要・目標 指導案
2回	
3回	
4回	保育所実習に向けて 課題設定等準備①
5回	
6回	
7回	保育所実習に向けて 課題設定等準備②
8回	
9回	
10回	保育実習 I 事後指導（保育園実習振り返り）
11回	施設実習に向けて 課題設定等準備
12回	
13回	保育実習 I 実習事後指導（施設実習の振り返り）
14回	
15回	まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実践演習			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
保育士としての現場活動の探究による課題の発見とその解決法を主題とする 1) 保育士として求められる技能の理論、その習得を確認し活用する演習 2) 保育を取りまく環境、技能等についての問題を探究し、実践的に形にする 3) 保育に関する制度、社会環境等について課題を探り、課題解決のための手段を考え、討議によって探求と理解を深める					
(学習目標)					
◎ 個人での取り組み、共同作業（グループワーク）の積極的な活動を行うこととする ◎ 課題や目標に対し、保育理論に基づいた考察とその実践例を制作し結果を発表する。また、それについての意見を述べ（討議）各自の考察と理解を深める。 ◎ 発表用資料、配布用レジュメ等をしっかりと作成できるようにする。					
評価方法・基準					
1. 授業に取り組む姿勢及び態度（30%） 2. 協力的姿勢（30%） 3. 発表（40%）					
履修上の注意点					
教科書					
使用しない（必要のある場合は授業内で紹介する）					
参考書					
二年間の学びを集大成できるよう、これまで使用したテキスト等を有効活用することがのぞましい					

	授 業 内 容
1回	授業趣旨説明とガイダンス等。
2回	〃
3回	〃
4回	作業活動
5回	〃
6回	〃
7回	〃
8回	〃
9回	〃
10回	〃
11回	〃
12回	〃
13回	〃
14回	〃
15回	〃

	授 業 内 容
16回	作業分担に基づく各種作業 発表前の最終確認作業（授業担当者による添削等の相談）
17回	〃
18回	〃
19回	〃
20回	〃
21回	〃
22回	〃
23回	〃
24回	〃
25回	〃
26回	〃
27回	〃
28回	成果発表
29回	〃
30回	〃

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
体育（実技）			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	必修	授業形態	実技
科目概要					
(授業のテーマ) 子どもの運動能力や体力の基礎となる力を養うために必要な運動あそびの基本について理解を深める。また、自らのからだを素材とする表現あそび、各種遊具を使った運動あそび等を楽しみ実践するための指導法、運動あそびにおける安全管理や環境設定などについても学びます。					
(学習目標) ・幼児期に必要な基本運動を理解することができる。 ・子どもの発育・発達に応じた運動あそび・表現あそびの展開方法について理解する。 ・運動あそびを楽しみ実践する援助法や安全管理（環境、遊具等）の基本について理解する。					
評価方法・基準					
実技テスト、レポート提出などの課題結果、および出席状況、授業に参加する学習態度、積極性を踏まえ、総合的に評価する。					
履修上の注意点					
・実技です。運動に適した動きやすい服装、髪型、靴で参加のこと。 ・水分補給用の飲み物、筆記具を持参する。 ・準備、片付けは協力して行い、遊具の安全管理や環境設定に必要な知識の修得も図る。					
教科書					
なし					
参考書					
なし					
備考					
実施場所、実習日程の関係で前後することがあります。					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション、授業内容及び進め方について
2回	からだを使って遊ぶ（模倣歩き）
3回	集団遊びと伝承遊び
4回	鬼遊びの内容と指導法について①、子どもの様子を知る
5回	鬼遊びの内容と指導法について②、色々な鬼遊びを経験する
6回	鬼遊びの内容と指導法について③、鬼遊びを考案し発表する
7回	色々なマット運動種目、鉄棒種目の自己の技術について確認
8回	マットを用いた遊びの安全管理・補助法について
9回	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について①
10回	跳び箱を用いた遊びの安全管理・補助法について①
11回	鉄棒、跳び箱を用いた遊びの安全管理・補助法について②
12回	鉄棒を用いた遊びの安全管理・補助法について
13回	ここまで行った補助法・補助法の修得確認を実施①
14回	ここまで行った補助法・補助法の修得確認を実施②
15回	修得確認振り返り

	授 業 内 容
16回	表現リズム遊び①学ぶ
17回	表現リズム遊び②考案
18回	表現リズム遊び③練習
19回	表現リズム遊び④発表
20回	バレーン遊び①学ぶ
21回	バレーン遊び②考案
22回	バレーン遊び③練習
23回	バレーン遊び④発表
24回	ボール遊びの導入法・安全管理、指導法について①
25回	ボール遊びの導入法・安全管理、指導法について②
26回	ボール遊びの導入法・安全管理、指導法について③
27回	運動遊びの指導案の作成について
28回	運動遊びの発表（模擬保育）①
29回	運動遊びの発表（模擬保育）②
30回	修得確認振り返り

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導Ⅱ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) ・保育実習Ⅰの評価や教員の指導を基に、実習Ⅱでの課題を明確にし、具体的な準備を行う。 実習終了後は、課題に対しての省察を行い、今後の学習につなげる。 ・実習や既習の教科目を踏まえた保育の改善を踏まえ保育の実践力を習得する。保育の観察や記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、事例や実践を通して理解する。					
(学習目標) ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。また、保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
評価方法・基準					
出席状況、授業態度、記録提出などを総合的に評価する。					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

授 業 内 容	
1回	オリエンテーション
2回	保育実習Ⅱ（保育所）の目的と課題①
3回	保育実習Ⅱ（保育所）の目的と課題②
4回	保育の知識・技術を活かした保育実践①
5回	保育の知識・技術を活かした保育実践②
6回	保育の知識・技術を活かした保育実践③
7回	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善①
8回	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善②
9回	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善③
10回	保育士の専門性と職業倫理①
11回	保育士の専門性と職業倫理②
12回	保育士の専門性と職業倫理③
13回	事後指導・まとめ
14回	
15回	

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育実習指導Ⅲ			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択必修	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 保育実習Ⅰの評価や教員の指導を基に、実習Ⅱ・Ⅲでの課題を明確にし、具体的な準備を行う。実習終了後は課題に対しての省察を行い、今後の学習につなげる。 2. 実習や既習の教科目を踏まえた保育の改善を踏まえ保育の実践力を習得する。保育の観察や記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、事例や実践を通して理解する。					
(学習目標)					
1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。また、保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
評価方法・基準					
・実習日誌の記述内容（25％）、実習先による評価（25％）、実習に必要な課題や提出物（25％）、実習の振り返り（25％）					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					
「保育所保育指針」 「実習日誌の書き方」「幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド」					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション・施設実習の目的
2回	児童福祉施設の種類・保育士の役割
3回	施設理解・施設で働く専門職の理解1
4回	施設理解・施設で働く専門職の理解2
5回	施設理解・施設で働く専門職の理解3
6回	福祉施設での実習の視点について
7回	自己課題
8回	実習日誌における記録および評価
9回	支援計画の理解・家族支援
10回	実習振り返り
11回	自己評価
12回	実習報告会準備
13回	実習報告会
14回	実習事例から学ぶ
15回	まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
メンタルヘルス			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
本科目では、こころの健康の問題について、症状・病気・予防方法などの知識を習得するだけでなく、メンタルヘルスにかかる労働法制、社会保障制度、マナーリテラシーを学ぶことで、保育士にとって必要な実践的なメンタルヘルスの知識を身につける。					
(学習目標)					
・メンタルヘルスの基礎的な知識を身につける。 ・メンタル不調になった場合の社会保障制度・労働法等の知識を身につける。 ・マナーリテラシーの基礎を身につける。 ・対人関係の心理学、幸福学などの知識を身につける。					
評価方法・基準					
・出席等の授業姿勢 ・リアクションペーパー					
履修上の注意点					
教科書					
参考書					

	授 業 内 容
1回	保育士におけるメンタルヘルス
2回	〃
3回	メンタルヘルスの予防・主な症状
4回	〃
5回	メンタル不調における会社制度・社会保障制度
6回	〃
7回	メンタル不調における労働法制
8回	〃
9回	経済・金銭問題とメンタルヘルス
10回	〃
11回	対人関係・コミュニケーション（社会心理学）
12回	〃
13回	メンタルヘルスと幸福学
14回	〃
15回	グループワークの発表・まとめ

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
保育のピアノB			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
1. 楽譜の音符とコードネームを理解する。 2. 臨時記号やリピート記号等、楽曲を通して復習する。					
(学習目標)					
1. 弾んだリズムを正しく弾こう。 2. 弾き歌いにも慣れよう。					
評価方法・基準					
・音符、指使い、リズム、テンポ等、基礎的な事が出来ているか。 ・簡単な（レベル1）のアレンジした楽譜も用意する。					
履修上の注意点					
・ゆっくりのテンポでも良いので次の小節に移る時等、間があかないように練習する。					
教科書					
楽譜を配布する。					
参考書					

授 業 内 容	
1回	課題曲「おかえりのうた」
2回	練習曲「せんせいとおともだち」
3回	「せんせいとおともだち」
4回	「おかえりのうた」
5回	「せんせいとおともだち」
6回	「おかえりのうた」
7回	「せんせいとおともだち」ピアノで個人レッスン
8回	「おかえりのうた」ピアノで個人レッスン
9回	※進度により他の練習曲 「もりのくまさん」「おもちゃのチャチャチャ」など
10回	
11回	
12回	
13回	実技試験 課題曲「おかえりのうた」
14回	残り時間「ドレミのうた」
15回	「ドレミのうた」

※授業の進捗状況によって適宜変更の可能性もありますのでご承知おきください。

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
造形			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ) 造形表現に関する保育者としての実践力を高めるとともに援助の拠り所となる基本的な考え方を把握する。 幼児の造形表現に関する実践力を高めるために体験的な演習を実施する。					
(学習目標) 【実践的指導力】 幼児の造形表現に関する実践的指導力を高める。 【基本的な考え方】 実践的指導力の拠り所となる基本的な考え方を把握する。					
評価方法・基準					
授業参加度・出席態度・制作過程・制作物・ポートフォリオをみて総合的に評価する。					
履修上の注意点					
はさみ、のり、カッター、ホッチキスなど工作に必要なものを各自用意する。 制作過程や作品は必ず写真で記録をする。					
教科書					
なし					
参考書					
「新造形表現 実技編」編著 花篤實・岡田愼吾、「美術教育概論」日本文教出版（改訂版）、「GIFTS FROM THE CHILDREN 子どもたちからの贈りもの—レジャ・エミリアの哲学に基づく保育実践」秋田喜代美 著（萌文書林）、「ハーバード・プロジェクト・ゼロの芸術認知理論とその実践」池内慈朗 著（東信堂）					

	授 業 内 容
1回	「オリエンテーション」子どもの造形表現と素材や環境について。
2回	「身近なものからの展開1」紙を使った活動と遊びについて。
3回	「身近なものからの展開2」紙を使った活動の展開を考察する。
4回	「造形遊びについて」過程を大切にすることについて。
5回	「自分を見つめる造形活動1」テーマをもとに廃材を使った表現を検討する。
6回	「自分を見つめる造形活動2」テーマをもとに廃材を使った制作をする。
7回	「自分を見つめる造形活動3」テーマにあった表現の工夫をする。
8回	「自分を見つめる造形活動の鑑賞と考察1」成果発表をする。
9回	「自分を見つめる造形活動の鑑賞と考察2」意見交換と活動のまとめをする。
10回	「動きが生まれる表現について」紙を使った動きの考察をする。
11回	「気持ちを伝える形1」テーマにあった素材の選択と制作をする。
12回	「気持ちを伝える形2」テーマにあった形の検討と制作をする。
13回	「気持ちを伝える形3」テーマにあった表現の工夫をする。
14回	「記録について1」子どもの造形表現に関わる大人の役割について。ポートフォリオの作成を通して活動を振り返る。
15回	「記録について2」出来事を共有するポートフォリオの意義について。

	授 業 内 容
16回	観察から表現へ① 身近な環境との関わりから思いを見つける。テーマの検討。
17回	観察から表現へ② 身近な環境との関わりから思いを見つける。表現方法の検討。
18回	観察から表現へ③ 身近な環境との関わりから思いを見つける。表現の発表と共有。
19回	絵本・詩・身近な芸術から表現へ① 作品に込められたメッセージの把握。
20回	絵本・詩・身近な芸術から表現へ② 表現へ展開できる題材の検討。
21回	絵本・詩・身近な芸術から表現へ③ 表現の発表と共有。
22回	空間を使った活動の展開① 素材の検討。
23回	空間を使った活動の展開② 表現方法の検討。
24回	空間を使った活動の展開③ 振り返り。
25回	自由課題① テーマの検討：情報の整理、マインドマップの作成。
26回	自由課題② テーマの検討：リサーチ、フィールドワークからの展開。
27回	自由課題③ テーマの検討：インタビューの方法と展開。
28回	自由課題④ 表現方法の検討
29回	自由課題⑤ 素材の検討
30回	自由課題⑥ プレゼンテーション

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
身体表現Ⅱ			2単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	演習
科目概要					
(授業のテーマ)					
1年次で学んだ科目「身体表現」は授業のテーマを「表現遊びのリーダーになるために」とし、自分の身体表現を自覚することは、子どもの身体表現を理解することとつながり、その楽しさを伝えるためには自らが楽しさを体感することが必要で、自身の身体・身体感覚と向き合うこと、物や他者との関わりながら表現を楽しむことを学びました。 この科目では、更なるステップアップを目指し、「身体」と「表現」を掘り下げ、身体と向き合うことと他者と関わるによりフォーカスを当てて、身体表現の楽しみ方を発見していきましょう。					
(学習目標)					
・自身の身体と向き合い、身体意識を高めて、身体の各部位を自由に自然に動かせるよう、しなやかな動きからダイナミックな動きまで楽しめるようになること。 ・「表現」とは、他者へ伝え、他者から受け取るということ。他者の存在も意識、体感でき、心も身体もほぐれた状態で仲間と共に身体を動かすことの楽しさを共有すること。 ・幼児が楽しめるような身体表現あそびの探求、発見を仲間とめざし、レパートリーを増やしていく。					
評価方法・基準					
・出席・学習態度 60% ・毎回のレポート 30% ・試験（最終課題）10%					
履修上の注意点					
・実技運動に相応しい服装で挑むこと ・積極的な態度で参加すること ・プリント類は各自ファイルに管理・保存 ・事前の体調管理に留意し体調を整えて参加すること					
教科書					
参考書					
・踊るこころ踊るからだダンス 青山社 ・幼児の楽しい運動あそびと身体表現 圭文社 ・感性を育む身体教育 ・CHILDREN DANCING Ward Look Educational					

	授 業 内 容
1回	講義 ガイダンス・身体ほぐし（椅子に座って）
2回	講義 ガイダンス・身体ほぐし（椅子に座って）
3回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
4回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
5回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
6回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
7回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
8回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
9回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
10回	実技 身体ほぐし・からだづくり・リズムに乗って
11回	実技 ウォーミングアップ・物を使って
12回	実技 ウォーミングアップ・物を使って
13回	実技 ウォーミングアップ・人と一緒に
14回	実技 ウォーミングアップ・人と一緒に
15回	実技 ウォーミングアップ・物を使って

	授 業 内 容
16回	実技 ウォーミングアップ・物を使って
17回	実技 ウォーミングアップ・人と一緒に
18回	実技 ウォーミングアップ・人と一緒に
19回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（物を使って）
20回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（物を使って）
21回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（物を使って）
22回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（物を使って）
23回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（人と一緒に）
24回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（人と一緒に）
25回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（人と一緒に）
26回	実技 ウォーミングアップ・創ってみよう（人と一緒に）
27回	実技 ウォーミングアップ・最終課題にむけて
28回	実技 ウォーミングアップ・最終課題にむけて
29回	実技 ウォーミングアップ・最終課題
30回	実技 ウォーミングアップ・最終課題

令和8年度シラバス

科目名			単位	担当教員名	
こどものこころのケア			1単位		
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
本講義では、幼児期から児童思春期に至るこどもの発達段階に応じた心理的支援のアプローチを学ぶ。具体的には応用行動分析（ABA）やポジティブ行動支援（PBS）、認知行動療法（CBT）などの枠組みを用い、メンタルヘルス不調への対処法や、問題行動に対する適切な関わり方（罰ではなく正の強化や分化強化による適応行動の促進）を習得する。保育・教育の現場で直面する多様な心理的課題に対して、専門的な視点から見通しを持って対応できる力を養うことをテーマとする。					
(学習目標)					
1. 保育現場で求められる、科学的根拠に基づいたこころのケアの理論と実践を身に着ける 2. 応用行動分析に基づき、「褒めて育てる」手法の理論と実践を説明できるようになる 3. 児童思春期のこどもに対するメンタルヘルス不調の予防的アプローチを理解する					
評価方法・基準					
初回講義時に「事前テスト」を実施するが、これは理解度確認と講義レベル決定のために行うもので、成績には含めない。「事前テスト」には実技も含むが、講義の中でできるように導いていくので、應ぜず受けてほしい。講義の中で必要な知識・技術について扱い、同じ内容を「事後テスト」で問う。各講義の最後にはリアクションペーパーを求め、これを出席点として取り扱う。					
履修上の注意点					
基本的に講義形式で実施するが、保育者として必要な技術について一部実技・演習を取り入れる。積極的な参加を期待したい。					
教科書					
適宜講義資料を配布する。					
参考書					
Stallard, P. (2019). <i>Think good, feel good: A cognitive behavioural therapy workbook for children and young people</i> (2nd ed.). John Wiley & Sons Ltd. (スタラード, P. 松丸 未来・下山 晴彦 (監訳) (2020). 子どものための認知行動療法ワークブック——上手に考え、気分はスッキリ—— 金剛出版) 石川 信一 (2018). <i>イラストでわかる子どもの認知行動療法——困ったときの解決スキル36——</i> 合同出版。					

	授 業 内 容
1回	オリエンテーション：認知行動療法の基本的発想
2回	傾聴技法、ヘルピングスキル
3回	うつと不安障害、摂食障害、強迫性障害について
4回	応用行動分析（1）オペラント条件づけとレスポナント条件づけ
5回	応用行動分析（2）随伴性ダイアグラムを用いた行動の理解と支援計画の策定
6回	親子相互交流療法 Parent-Child Interaction Therapy (PCIT)
7回	ポジティブ行動支援法 Positive Behavior Intervention (PBS)
8回	認知行動療法（1）認知再構成法
9回	認知行動療法（2）エクスポージャー法、暴露反応妨害法
10回	認知行動療法（3）行動実験
11回	認知行動療法（4）行動活性化
12回	認知行動療法（5）アサーションスキルトレーニング
13回	認知行動療法（6）リラクゼーション法、呼吸法、マインドフルネス
14回	実践演習（1）行動の原理に基づく問題行動への支援計画をつくる
15回	実践演習（2）認知再構成法を自分に使ってみる

令和8年度シラバス

科目名		単位	担当教員名		
ヒトのからだと仕組み		2単位			
開講年次	2年次	科目区分	選択	授業形態	講義
科目概要					
(授業のテーマ)					
1) ヒトのからだはどのように発生して、機能していくのか?について 解剖学・生理学をはじめ、科学の総合視点から眺望していくことを目標にします。 2) ゼミ形式の授業展開なので、興味や疑問点を随時発言して、問題解決の糸口にする環境とする。 3) 「なぜ?」、「どうして?」を大切にします 4) ヒトを構成している様々な要素を人間の全体像として捉える。 5) 知識の記憶より、興味や、自分自身の新しい発見に繋げていくことが主眼とします。					
(学習目標)					
◎問題点や疑問点の発見を試みる ◎発言や声に出して意見を述べる、積極姿勢を習得する ◎他者の意見に耳を傾ける ◎積極発言と傾聴力をどこまで高められるか?					
評価方法・基準					
1. 配布資料の精読と自己研鑽 2. 小論文 (100%) 3. 受講態度 (10%) ・ 出欠席数・授業に対する取り組みの意欲と姿勢 (受講に直接の必要のない行為・行動)					
履修上の注意点					
*他者の発言を拒まない *耳 (傾聴) の訓練に活用 *知識の準備より学習目標の準備					
教科書					
オリジナル配布小冊子を使用します。					
参考書					
必要に応じて適宜、紹介します。					

	授 業 内 容
1回	本講義の目標と学習の取り組みについてorientation ヒトの最小単位である「細胞」について概説をします。
2回	血液も「細胞」から始まる。どんな性質をもった細胞があるのか? 身近にある。免疫系細胞の実験結果を示します。
3回	「神経細胞」の構造と構成 「ニューロン」から何を想像しますか?
4回	情報の伝達はどうに行われているのか? 神経の分類 (どんな新鋭があるのか? また、その動きは? 「交感神経」と「副交感神経」の働きと我々の日常生活を照らし合わせてみる?
5回	「呼吸」の仕組みについて概観する 「呼吸」を改めて考えた事がありますか? なぜ、どうして?
6回	「血液」の役割を概観する 血液の成分と働きを考えてみましょう 全身を巡る血液を追跡して、その働きtrainingの意義を考えてみましょう
7回	「骨」の名称をいくつ知っていますか? 「骨」の働きを改めて考えましょう 「ヒトの動き」と骨・関節・筋 (骨格筋) の繋がりを確認しましょう
8回	「関節」の種類と機能を考えた事がありますか? 「骨形成」の機序を概説します
9回	本講義は、筋肉の中でも「骨格筋」に限った内容です 骨格筋の分類を整理してみましょう ヒトの動きと骨格筋の動きを「日常生活」をイメージしてみましょう
10回	骨格筋の誕生メカニズムを概説します 骨格筋の「色」は何を物語っているでしょう?
11回	「筋肉痛」をどのように理解すればいいのでしょうか? 「こむら返り」はなぜ起きる? どうする?
12回	Trainingの原則を理解しましょう。概説します 「免疫」の用語から何をイメージしますか? そもそも、「免疫」とは何かについて概説します
13回	「免疫」の発見に関する歴史と人物について概説します。 「免疫」のシステムを理解しましょう 「免疫細胞」の働きと日常生活の連関を発見しましょう
14回	「内分泌」とは? ホルモンとは、について概説します 「ホルモンの機能」と「からだ」の関係について考えてみましょう
15回	そもそも、ホルモンの働きとは何でしょうか? 脳内ホルモンとはどんなものなのでしょうか? 脳内ホルモンの種類と働きを改めて考えてみましょう

	授 業 内 容
16回	「運動」とホルモンは関係あるのか？ ヒトの臓器とホルモンの関係を改めて概観しましょう
17回	「肥満」に対するイメージは？ ヒトが「太る」のはなぜか？
18回	「脂肪」、「タンパク質」「糖質」についてその働きを概説します 「中性脂肪」の誕生はご存知ですか？ メタボリック症候群の理解を深めましょう
19回	栄養の吸収経路を概観しましょう 各栄養素の働きを改めて考えましょう 運動と栄養の関係について理解を深めましょう
20回	運動と栄養の関係について理解を深めましょう ビタミンについて深く広く、理解を深めましょう
21回	ミネラルを考えましょう 「体脂肪」とは何か？計測方法は？
22回	こどもの発育・発達と運動について考えてみましょう 「運動と脳機能」は関係あるのか？
23回	「学校保健」についての意見交換をしてみましょう こどもの健康について、最近気になることを話し合ってみましょう — 解決の糸口が見えると良いな —
24回	I、II講の中から、再度、問題点や疑問点を掘り起こして discussionsしましょう
25回	III、IV講の中から、再度、問題点や疑問点を掘り起こして discussionsしましょう
26回	V、VI講の中から、再度、問題点や疑問点を掘り起こして discussionsしましょう
27回	高齢者の健康（運動と食事）づくりは？
28回	「日常生活と健康づくり」のための実験例を参考に身の回りを眺めてみましょう
29回	からだの仕組みと機能について全体討議
30回	小論文（課題）作成